

Economic Indicators

発表日: 2018年8月8日(水)

国際収支(2018年6月)

～経常収支(季調値)は黒字幅縮小も堅調な推移～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 伊藤 佑隼 (TEL: 03-5221-4524)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支	
				貿易収支	サービス収支			
					貿易収支	サービス収支		
2017	5月	16,932	15,896	1,586	3,205	▲ 1,620	15,973	
	6月	9,252	15,544	1,453	2,092	▲ 638	15,982	
	7月	23,471	18,649	4,062	5,136	▲ 1,074	16,469	
	8月	24,007	21,030	5,146	5,749	▲ 603	17,979	
	9月	22,583	18,377	3,993	4,898	▲ 905	16,367	
	10月	21,885	22,961	7,286	5,352	1,934	17,467	
	11月	13,407	18,652	4,036	4,824	▲ 788	16,605	
	12月	7,965	17,335	2,545	2,730	▲ 185	17,063	
	2018	1月	5,924	18,627	4,424	5,257	▲ 832	15,740
		2月	21,082	9,933	▲ 2,845	▲ 2,819	▲ 25	14,686
		3月	31,816	18,276	3,555	4,861	▲ 1,306	16,352
		4月	18,451	18,855	5,200	6,687	▲ 1,487	15,085
5月		19,383	18,500	▲ 937	789	▲ 1,726	21,028	
6月		11,756	17,624	798	2,451	▲ 1,653	18,798	

(出所) 財務省「国際収支統計」

○経常収支(季調値)は黒字幅縮小も均してみれば堅調

6月の経常収支(原数値)は11,756億円の黒字(コンセンサス: 12,189億円の黒字、レンジ: 7,700~14,880億円)とコンセンサスを下回る結果となった。季節調整値では17,624億円の黒字となり、前月(5月: 18,500億円)から黒字幅が縮小した。

経常収支(季節調整値)を項目別にみると、最も大きく押し下げたのは所得収支の黒字幅縮小だ。ただし、黒字幅の縮小は5月分を押し上げていた一時的な要因が剥落したことによるものとみられることから、特に問題はないだろう。一方、6月の貿易収支(季節調整値)は輸出横ばい、輸入減少となったことで黒字幅を拡大させた。総じて、所得収支の減少により、6月単体では経常収支は前月から黒字幅を縮小させる結果となったが、均してみれば引き続き高水準の推移が続いている。

○直接投資収益が減少も所得収支は均せば高水準

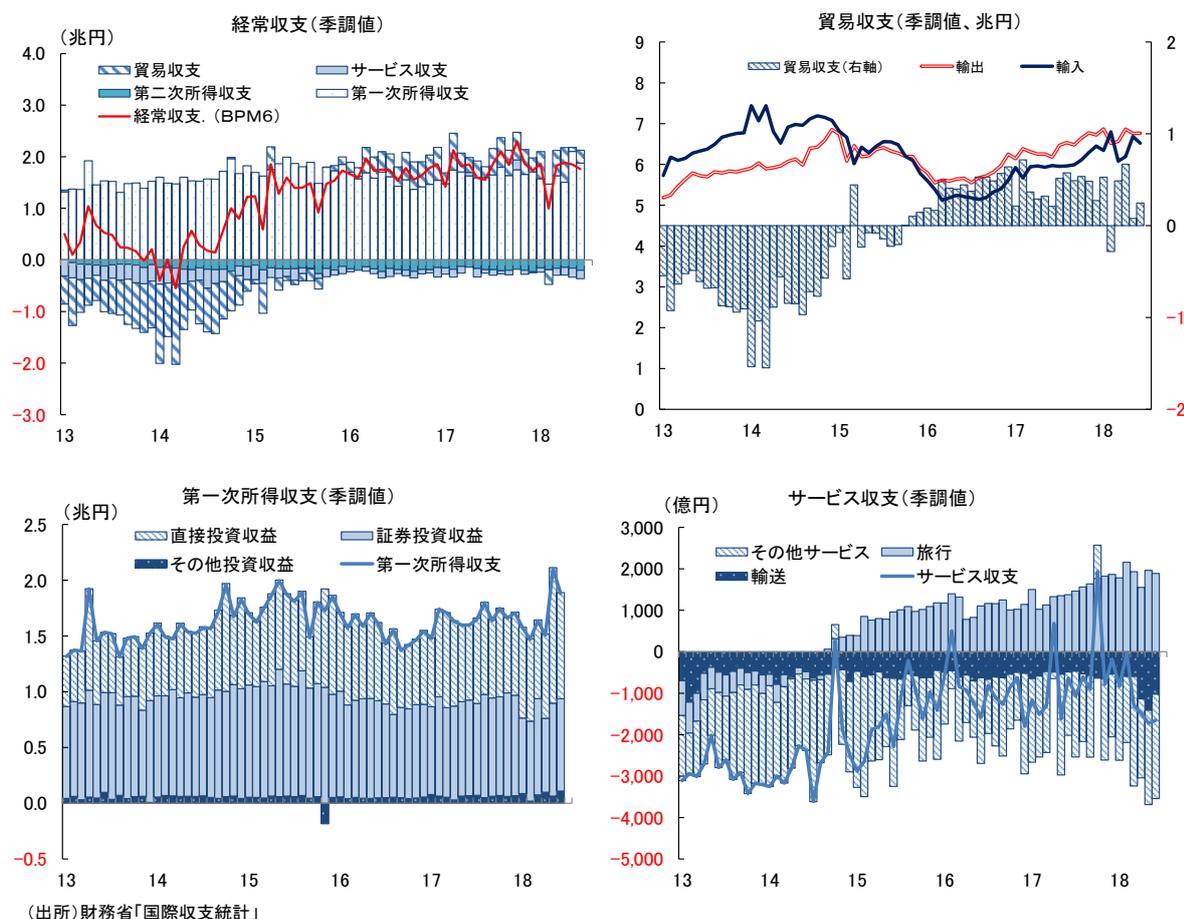
6月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は18,798億円の黒字と前月(5月: 21,028億円の黒字)から黒字幅が大きく縮小した。直接投資収益の黒字幅縮小(5月: 12,155億円の黒字→6月: 9,509億円の黒字)が主因だ。もっとも、前述の通り、5月に一時的な要因から受取額が大幅増加となっていたものが、元に戻ったに過ぎず、悲観的に見る必要はない。直接投資収益は、世界経済が緩やかな改善基調にある中で、高水準で推移している。

サービス収支は、▲1,653億円と前月から赤字幅が縮小した。内訳をみると、旅行収支（5月：1,962億円黒字→5月1,887億円黒字）は、黒字幅を縮小したが、訪日外客数の上半期の累計が前年同期比+15.6%と過去最高を記録する中で、高水準での推移が続いている。その他サービスについては、赤字幅が拡大（5月：2,277億円の赤字→6月：2,516億円の赤字）したが、輸送収支（5月：1,411億円の赤字→6月：1,024億円の赤字）の赤字幅が縮小したことによって、サービス収支は前月から赤字幅を縮小する結果となった。

○堅調な所得収支が経常収支を押し上げる見込み

以上のように、6月の経常収支（季節調整値）は、第一次所得収支の黒字幅が縮小したことが主因となり、黒字幅を縮小させる結果となった。ただし、黒字幅の縮小は5月分を押し上げていた一時的要因の剥落によるものなど、内容は悪くなく、均してみれば経常収支は堅調に推移しているとみている。

経常収支の先行きをみると、輸出は、拡大基調で推移するとみられる世界経済に足並みを揃える形で、緩やかな増加基調を維持するであろう。しかし、原油価格が上昇基調にあることや内需拡大を背景に輸入金額も増加することで、貿易収支の一段の改善は期待しづらい。一方、所得収支については、米国を牽引役に世界経済が改善基調で推移していくとみられることに加え、為替が円安方向で推移していることなどから、引き続き高水準を維持することが見込まれる。総じて見れば、経常収支は、所得収支の堅調さが押し上げに寄与することで、引き続き高水準で横ばい圏の推移を続けるとみている。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。